

「向き合ひ 楽しむ」

しまらぬ快樂をすてることによつて、広大な楽しみを見ることのできるのであるなら、心ある人は広大な楽しみをのぞんで、しまらぬ快樂を捨しよ。

「フミタの真理のことば・感興のことば」中村 元 訳 P50

戒めを受けたもつことは楽しい。身体が悩まされることがない。夜は安らかに眠る。目が覚めたならば心に喜ぶ。

「フミタの真理のことば・感興のことば」中村 元 訳 P181

戒とは自分を律する内面的な道德規範。戒といふは「何々してはならない。」「いさし戒めである」と受け取られがちであるがそれはなくて、自発的なものである。

諸縁を崩捨し、万事を休息して善悪を思わず是非を管すること莫れ。心意識の運転を止め、念想觀の測量を止めて作仏を図ること莫れ、豈に坐臥に拘わらんや。

「普勸坐禅儀」 道元禪師

一分坐れば一分の仏 三分坐れば三分の仏

自己のよきよきをいへば、向き合ひ楽しむまじし。